

牛久：学校周辺に見る自然

第20号 ひたち野うしく小学校

2018年5月29日発行

＜ 晩春のみずべ公園 ～⑧その他の動物たち＞

ひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回は、その他の昆虫とコイ。



ケキツネノボタンの蜜や花粉をなめるヒラタアブのなかまと、アシナガグモ(左)。 ブタナの花粉をなめるミナミヒメヒラタアブ(右上)。 ヒラタアブ類のさなぎ(右中2枚)。 マルボシヒラタハナバエ(右下)。

まずは、花に来るヒラタアブ類とハナバエのなかま。何気なく写したケキツネノボタンの写真に、花粉をなめるヒラタアブ類と、えものを待つアシナガグモが写りこんでいました。ヒラタアブ類のさなぎも、いくつか見つかりました。よく見ると白っぽいのと黒っぽいのと、頭(細い方)が上のと下



のと、いろいろでした。花や果実に来るといふ、マルボシヒラタハナバエも見つけました。

カワヤナギの枝では、葉を食べるヤナギハムシとその羽化殻も見つけました。4年生の観察時よりは、だいぶ数が減っていて、どこかと探してしまいました。ヤナギルリハムシや両者の幼虫は、ざっと見ただけですが、今回は見つかりませんでした。



上左から、ナナホシテントウ、その幼虫^{ようちゆう}、さなぎ^{さなぎ}、ナミテントウ幼虫^{ようちゆう}。下はナナホシテントウのさなぎと、クロオオアリ女王。



ナミテントウはハコネウツギで多く見つけましたが（第14号）、ナナホシテントウなども含め^{ふく}、他の草でもけっこう見つけていました。成虫^{せいちゆう}だけでなく、幼虫^{ようちゆう}やさなぎもたくさん見つけましたね。近くに、クロオオアリの女王も見つけました。大きいですね。



ギシギシの葉を食べるコガタリハムシも、幼虫^{ようちゆう}はずいぶんと少なくなりましたが成虫^{せいちゆう}はたくさん見つけました。ハコネウツギの葉を食べる、クチブトゾウムシのなかまも見つけました。ジョウカイボン^{かふん}は花粉を食べているのをよく見ますが、小さな虫を食べることもあるそうです。

ギシギシの葉を食べるコガタリハムシ（左）と、ハコネウツギの葉を食べるクチブトゾウムシのなかま（右上）、花によく来るジョウカイボン（右下）。



コメツキムシのなかま（左上）と、オオヒラタシデムシ（中上）。チャバネアオカメムシ（左下）とクヌギカメムシのなかま（中下）、ギシギシにびっしりつくアブラムシ（右）。

甲虫類^{こうちゆうるい}では他に、コメツキムシの仲間^{なかま}とオオヒラタシデムシ（第11号）も見つけました。カメムシでは、みずべ公園ではよく見かけるチャバネアオカメムシとクヌギカメムシの仲間^{なかま}がいました。



シオカラトンボ(左)。交尾しながら移動するものも(右: ^{ひだりがわ} 左側がめす。おすとのちがいは?)。

トンボは、シオカラトンボが目につきました。交尾しながら飛んでいるものも見られましたね。



小さなちいさな、ショウリョウバッタの幼虫(左)。下から見上げた、オオカマキリの卵(右)。

「バッタの幼虫がいるよ～」と、呼んでくれました。「えっ、どこどこ？」指さしてもらって、ようやく老眼の進んだ私にも見つけられました。とっても小さな、ショウリョウバッタの幼虫でした。よく見つけましたね。アキグミの枝には、オオカマキリの卵が。ふ化は済んだのかな？



コブハバチによる虫こぶ、シダレヤナギハオオコブフシ(左)。フシダニによる虫こぶ、アカシデメムレマツカサフシ(右)。



虫こぶは第11号で紹介したイヌシデメフクレフシの他に、アカシデにフシダニが寄生してできるアカシデメムレマツカサフシや、シダレヤナギにコブハバチが寄生してできるシダレヤナギハオオコブフシも見られました。そして、池の岸辺では、大きなコイがゆったりと泳いでいました。【理科支援員：宮内】
池の岸近くをゆったりと泳ぐ、大きなおおきなコイ。